

概要報告

高山帯の維管束植物研修に関する分類学能力構築

(1) 開催概要

1. 開催日時：平成 29 年 10 月 2 日～9 日
2. 開催場所：クイーン・シリキット植物園 (QSBG) (タイ・チェンマイ)
3. フィールド研修：ドーイ・インタノン国立園
4. 研修生：ASEAN 諸国 10 カ国から計 10 名
5. 講師 (4 名)：
 - ・ 矢原 徹一氏, 九州大学
 - ・ 田中 伸幸氏, 独立行政法人 国立科学博物館
 - ・ Dr. Piyakaset Suksathan, QSBG
 - ・ Dr. Prachaya Srisanga, QSBG
 - ・ Dr. Somran Suddee, The Forest Herbarium, BKF

(2) 研修の背景及び目的

東・東南アジア地域は豊かな生物多様性を有するものの、その豊かな生物多様性を保全するために必要な分類学の能力構築が不十分な現状にある。

生物多様性条約 (CBD : Convention on Biological Diversity) においても、生物多様性の科学的把握及び保全施策の両面から分類学の能力構築の必要性が議論されているところであり、世界分類学イニシアティブ (GTI : Global Taxonomy Initiative) が打ち出されている。日本は、東・東南アジア地域における生物多様性保全に必要な東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ (ESABII : East and Southeast Asia Biodiversity Information Initiative) を推進し、平成 22 年度以降、植物、鳥類、魚類、サンゴ等の分類学に関する研修を実施してきた。

本業務では、以下のとおり東・東南アジア地域を対象とした高山帯の維管束植物の分類学能力構築のための研修を実施し、ASEAN 加盟国の科学者や研究者の関心と理解を深めるとともに、同地域における分類学の更なる能力構築に資することを目的としている。

- ・ 高山帯の維管束植物に関する分類学能力構築
- ・ フィールド研修 (ドーイ・インタノン国立公園) における高山帯の維管束植物の観察、記録、サンプル収集
- ・ 高山帯の維管束植物の標本作製・取り扱い方法及び管理技術の習得
- ・ QSBG の研究者等との交流

- ・野外調査とフィールドガイドブックを作成することを通じて、実務経験を積む

1 日目

- ・開会（ル・メリディアン・ボールルーム 2）

フィリピン大学及び ACB 科学諮問委員の Edwino Fernando 氏が司会進行を務め、開会が行われた。

冒頭、本研修のホストであるタイ・チェンマイ・クイーン・シリキット植物園 (Queen Sirikit Botanic Garden) の Piyakaset Suksathan 氏より研修開催に対する紹介と開会の挨拶があり、続いて、ASEAN 生物多様性センターの Filiberto Pollisco 氏が本研修の必要性、研修背景、分類学に関する情報の不足などの紹介及びオリエンテーションを行い、ASEAN 各国における分類学能力構築研修の意義を強調した。

- ・講義

タイ・バンコクにある The Forest Herbarium (BKF) の Somran Suddee 氏から The Forest Herbarium (BKF) の研究活動、植物の標本の管理方法における事例研究・最新情報の紹介があり、続いて、本研修の主催者として環境省の齋藤佑介氏が研修関係者への謝辞、本研修の紹介、分類学能力構築支援の取組及び研修成果に対する期待を述べた。

加えて、QSBG の Prachaya Srisanga 氏からは、分類学・植物に関する言葉及び分類学の重要性などを紹介し、司会進行を務めた Edwino Fernando 氏によるフィールドガイドブック作成及び分類学の必要性の紹介を行った。次に、QSBG の Piyakaset Suksathan 氏より高山帯の維管束植物・生態学を紹介し、国立科学博物館の田中伸幸氏によるミャンマー・タイの高山帯の単子葉植物の紹介がなされた。最後に、九州大学の矢原徹一氏による東南アジア高山帯における植物多様性の評価の紹介があった。

2 日目

- ・講義及び実習 (QSBG)

午前、QSBG の Piyakaset Suksathan 氏より QSBG のオリエンテーションがなされた。その後、QSBG 見学及び標本の撮影練習などを行った。

午後には、QSBG の有機栽培農場、標本室と温室等の見学ツアーを実施した。見学では、庭園や温室の管理、標本管理の工夫、来園者への普及啓発の実施状況等が紹介された。最後、QSBG の Prachaya Srisanga 氏からは、翌日ドーイ・インタノン国立公園のフィールド実習における、注意事項と持参物などを説明した。

3 日目

- ・講義及びフィールド実習 (ドーイ・インタノン国立公園)

午前、ドーイ・インタノン国立公園に到着後、ドーイ・インタノン国立公園スタッフによるドーイ・インタノン国立公園の紹介を行った。

午後、サミットトレイル・雲霧林(Ang Ka Nature Trail)・ロイヤルシダガーデンフィールドにてフィールド実習を実施し、研修生（本業務による研修生 10 名及び ACB により追加招聘された研修生 23 名）は 7 グループに分かれ、講師による植物標本収集・撮影の実演とともに、サンプルを収集した。講師からは、植物種の探し方、写真撮影などの説明がなされた。研修生は講義で学んだことを実践し、各グループの採集する目標種類は下記の通りです。

グループ 1 着生植物及びつる植物

グループ 2 タイ・ドーイ・インタノン国立公園における木

グループ 3 高地・低山植生帯の灌木及び低木

グループ 4 ラン

グループ 5 草本単子葉植物

グループ 6 双子葉植物ハーブ

グループ 7 シダ

4 日目

・フィールド実習（ドーイ・インタノン国立公園）

午前、ドーイ・インタノン国立公園の宿舎にチェックアウトし、フィールド実習は Doi Kew Mae Pan Trail で実施した。Doi Kew Mae Pan Trail では 4 km ほどのループトレイルにいくつかの生態系（亜高山帯の牧草地およびクリフサイドの植物）を横断的にカバーし、研修生は昨日と同様の 7 グループに分かれ、サンプルの収集・撮影を行った。

その後、ドーイ・インタノン国立公園に戻って、講師によるフィールドガイドブックへ記載すべき情報などについて説明し、研修生は収集したサンプルを記録し、整理した。

5 日目

・講義及び実習 (QSBG)

九州大学の矢原徹一氏によるブナ科・クスノキ科の分類学及びガイド写真集編集の改訂についての講義があり、フィリピン大学及び ACB 科学諮問委員の Edwino Fernando 氏によるフィールドガイドブックの作成：植物種の研究等について説明がなされた。その後、QSBG に持ち帰り、ドーイ・インタノン国立公園で採集されたサンプルを記録、同定、標本作成を行った。

6-7 日目

・講義・実習 (QSBG)

前日に続き、研修生は講義で学んだことを実践し、各グループでフィールドガイドブックの作成及びグループ発表の準備を行った。

8日目

・研修生によるグループ発表 (QSBG)

フィールドガイドブックの作成のため、標本作成を完了し、各グループによる発表が行われた。

